

# 福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

## ● 100万人参観者運動を!

'81年10月来館者数 5,866名

通算1カ月平均来館者数 3,779名

当月1日平均来館者数 217名

通算来館者数 245,684名

## 平和協会の創立七周年にあたり その活動をふりかえる

第五福竜丸平和協会  
専務理事 広田重道

### 七才の誕生日

来る十一月二十八日で、平和協会は創立七周年を迎えます。いわゆる平和・民主団体のなかでは新参ですが、関係各位のご支援により、何とか原水爆禁止運動の一翼を担うようになりました。

いま、創立いろいろの歴史をふりかえりますと、幾つかの業績が残されているかに思われます。展示館の開設

まず、第五福竜丸保存委員会の業績を引きつぎ、第五福竜丸

展示館の開設に漕ぎつけたことでもあります。それは無数の善意の都民の力と東京都のご支援の結果でもありますが、平和協会

自体の努力も評価されるべきでありましょう。次に、開設された展示館を東京都の方針のもとに大過なく今日まで運営してきたことで、利用者が年々、数も、幅もひろがり、通算二五万名に迫っていることは、成果と考えられます。この運営については、毎年「第五福竜丸展示館・管理レポート」として公開されています。協会の宣伝啓蒙活動

当っています。また、絵はがき、バッチ類の作成、販売も手がけています。協会の独自行事

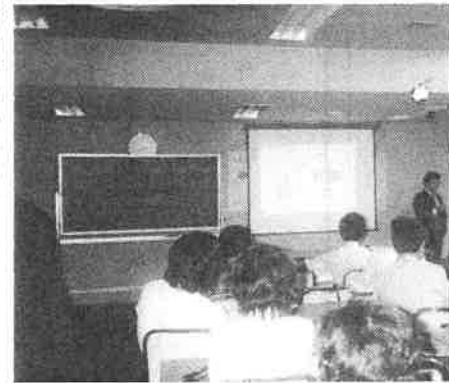
協会は毎年、「新春・夙あげ大会」「三・一記念集会」、「展示館創立祝賀会」(六月)「九・二三記念集会」などとともに、学習集会「ビキニ事件を知る集い」を経営的にひらくほか、さまざまな大衆集会を行っています。

とくに、七周年記念として資料室開設計画を立て、そのための募金活動も行っています。この募金活動は、協会の今後の発展のパロメーターと考えていますので、是非とも年度内の達成が望まれている次第です。

資料室募金状況  
(八一、一〇、二一現在)  
総額一、〇〇八、二五〇円  
氏名(前号報告以降)  
長田豊秀、諸橋綾子、伏見克彦、展示館内常設募金箱より。



主張



もたちと都教組江東支部の先生や父兄も参加しました。「これボクの絵だよ、すごい銀賞だ」などの歓声の中で、平和協会の広田専務理事から立派な額に入った賞状、ノート、絵はがきなどの賞品がみんなに手渡されました。佳作を含む十三の入賞作も決まり、支部長大賞は砂町小学校三年生の伊原ゆき子さんがこっそりと受け取りました。

## 「船を見つめた瞳」普及中 盛況だった完成祝賀会

五年間におよぶ二千余名のひとびとの第五福竜丸にそそいだ想いをまとめた美しい感想文集『船を見つめた瞳』(平和協会編)同時代社刊八〇〇円)は、大変好評、普及活動がすすんでいます。

す。朝日新聞、毎日新聞はじめ、赤旗、平和新聞、少年少女しんぶん、原水協通信などにも紹介され、十一月に大学生協がとりくむ核問題の読書フェアの一冊にもとりあげられました。

## 文化祭で「福竜丸」の訴え

秋—学園祭・文化祭の季節に今年もたくさんの中高校生が展示館を訪ね、学習し、まとめ、発表しました。昨年より福竜丸の取りあげ方が多くなっています。

その一つ。十月六日、七日にひらかれた調布第四中学校の文化祭は、三年一組の「核ってなあに」の展示が異色でした。核全般に「挑戦」(文化祭のテーマ)した展示品の中には、第五福竜丸もいくつかの写真でしっかり位置づけ

られ、原水爆開発の歴史、水爆の構造と破壊力、ビキニ事件の本質など数枚の模造紙に図解し、係の生徒は見学に来る人に熱心に説明していました。

中性子爆弾とは?原発とは?原子力発電所見聞記などにまじって広島・長崎の被爆写真、原爆瓦なども展示され、10フィート運動に協力を、福竜丸を見に行こうのアピールもあり、夏休み前から全員が分担しとりくんだというだけあって力作ぞろいでした。

また、十月九日おこなわれた町田市つくし野中学校の文化祭では二年E組が「戦争と平和」の大テーマにとりくみ、ビキニ事件はじめ原水爆に焦点をあてて構成。なかでも中性子爆弾がわが校に落とされたらの図解は緊迫感があふれるものでした。親からの戦争体験の聞き書き集「戦争」、感想文集「原爆の本を読んで」の発行なども意欲的でした。このほか、横浜の谷本中学、法政二高、埼玉の葛飾中学、狛江中学などが展示会を見学し文化祭でそれぞれ成果を発表しました。

九月二十九日には、私学会館で完成祝賀会がひらかれ、三宅会長はじめ協会役員のほか三十数名が出席し発刊を祝い、普及に力をいれることを申しあげました。当日、都教組江東支部、東建従、新宿原水協、日本原水協など十冊から五十冊まで注文もあり出足好調。服部学先生はいろいろな会合で宣伝、二〇余冊を普及されいま追加注文中。展示館の売店でも売れはじめ、新聞で読んでぜひ送って下さいとの申し込みも少しづつ増えています。二千部普及にはまだまだです。「たより」読者のみなさんはぜひ一読されるとともにまわりの方にすすめて下さい(協会まで、送料共千円)。